

環境に配慮した取り組み ～ 新東名での緑化によるCO₂吸収・固定 ～

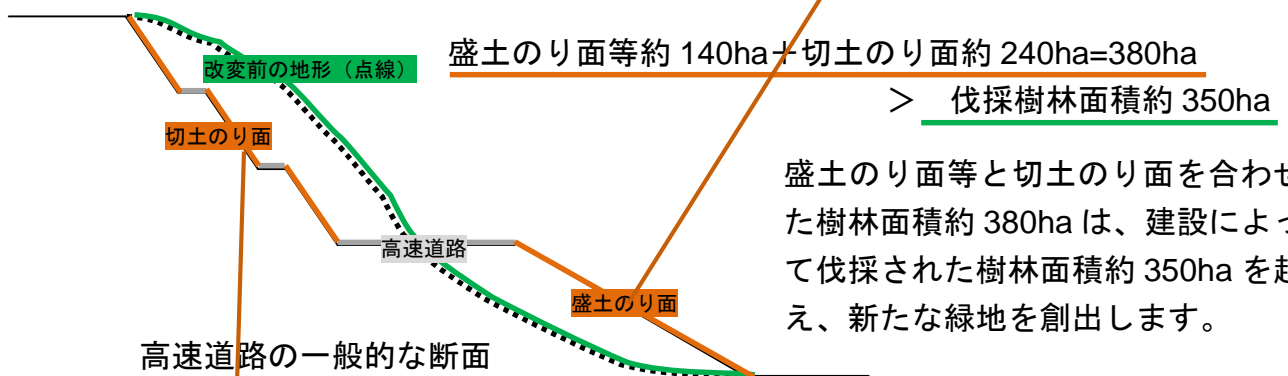
NEXCO中日本では、「環境・持続可能社会への貢献」の取り組みとして、環境に配慮した取り組みを実施しています。

【盛土のり面部】

来年初夏に開通を目指している新東名高速道路 御殿場 JCT～三ヶ日 JCT では、その地域で採取した種から育てた地域性苗木約 35 万本を含む約 125 万本を植樹し、盛土のり面等約 140ha の樹林化を行い、年間約 1,500 t の CO₂ 吸収・固定に役立てます。(下写真)



新東名高速道路 御殿場 JCT～三ヶ日 JCT

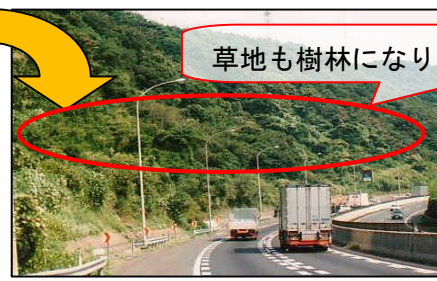


【切土のり面部】

新東名高速道路では、樹林化以外にも切土のり面等を草地として約 240ha を緑化しています。この緑地は、将来、周辺に自生する樹木の種子が飛来し成長することで樹林になると想定しています。(下写真)



建設当初(1965年)



約40年経過後(2005年頃)

(例) 名神高速道路 養老サービスエリア付近の状況

当社は今後も引き続き、のり面の樹林化を通じ『地球温暖化の抑制』『地域環境への配慮』を推進いたします。

【参考】

○新東名高速道路 御殿場 JCT～三ヶ日 JCT 間で採用した主な地域性苗木
(常緑樹)



アラカシ



サカキ



ヒサカキ

(落葉樹)



コナラ



ヤマザクラ



ウツギ

○地域性苗木とは・・・

地域性苗木とは周辺に自生する樹木のタネから育てた苗木のことです。

地域に自生する樹木の種子から苗木を育てているため、市場に流通していない樹種も生産することで、移入種による遺伝子の攪乱を防ぐなど、地域の生態系・種・遺伝子のレベルで生物多様性に貢献できるものです。

1996年から使用を開始し、NEXCO中日本管内ではH22年度末までに約55万本植樹しています。

なお、地域性苗木は地域に自生する樹木を使用して、生物多様性の保全を図るシステムを開発・適応した点が高く評価され、『土木学会環境賞』『日経地球環境技術賞』を受賞しています。



地域性苗木の製造行程